ふるさと歴史館第30回企画展

石岡の歴史文化を考える

石岡の「歴史文化」の特徴とは
それを守り、活かすには―

令和４年
10月5日▶12月27日

月曜休館（祝祭日のときはその翌日）
午前10時～午後４時30分
入館無料

石岡市立ふるさと歴史館

石岡市総社 1-2-10 石岡小学校敷地内
電話　0299-23-2398

石岡市立ふるさと歴史館 第30回企画展

石岡の歴史文化を考える

■目次

はじめに　1
Ⅰ　文化財保存活用地域計画とは　2
Ⅱ　石岡市文化財保存活用地域計画の作成状況　4
Ⅲ　石岡の「歴史文化」　6

■例言

本冊子は、令和４年(2022)年10月５日から12月27日をして開催する石岡市立ふるさと歴史館第30回企画展の前半期展示に際して作成したものです。

展示および本冊子の編集・執筆は、石岡市教育委員会 文化振興課（谷仲俊雄）が行いました。

■謝辞

以下の方々・機関にご指導・ご協力をいただきました。ありがとうございました。

神谷さおり　姜咲知子　塩田英登　高橋真希　平方亜弥子
松井　潔　村上　愛　村上佳代
石岡市生活環境部コミュニティ推進課
石岡市文化財保存活用地域計画協議会
石岡未来会議vol.3参加のみなさま
茨城県教育庁総務企画部文化課
株式会社イビソク
文化庁地域文化創生本部

石岡の歴史文化を考える

「文化財保存活用地域計画」―みなさん聞いたことがありますか？

おそらく多くのみなさんが聞きなじみがないかと思いますが、それも当然で、平成30年の文化財保護法の改正によって新たに位置付けられた計画になります。文化財の保存・活用に関して、市が目指す将来像やそれに向けての方針や取り組み内容を記載する総合的な計画です。石岡市では令和5年度の認定を目指し、令和3年度から作成を進めています。

では、石岡市では、どのような将来像を目指すべきでしょうか？また、そもそも石岡市で守り、伝えるべき「歴史文化の特徴」―石岡らしさ―とは何でしょうか？そして、それを守り、活かし、伝えていくには、どのようにしたらいいでしょうか？

今回の企画展では、現在作成中の計画で考えていることを紹介するとともに、それに対してのみなさんからの意見を伺いたいと思っています。

石岡市の歴史文化について考え、そしてそれをどう守り、活かし、伝えていくかを考えるきっかけとしていただければ幸いです。

▲ 文化庁の文化財保存活用地域計画のパンフレット

文化財保存活用地域計画　作成の背景と目的

「文化財」というと、どのようなものを思い浮かべるでしょうか？仏像や寺院、神社、城、あるいは博物館に飾ってあるものでしょうか。観光の際に見るもので、普段はあまり縁がないというイメージの方もいるのではないでしょうか。

確かにこれまでの文化財保護の仕組みは、そのような優品や名所旧跡といった重要なものだけが文化財として指定・登録されていました。そして、その指定・登録されたものだけを個別に守っていくというものでした（右図上）。

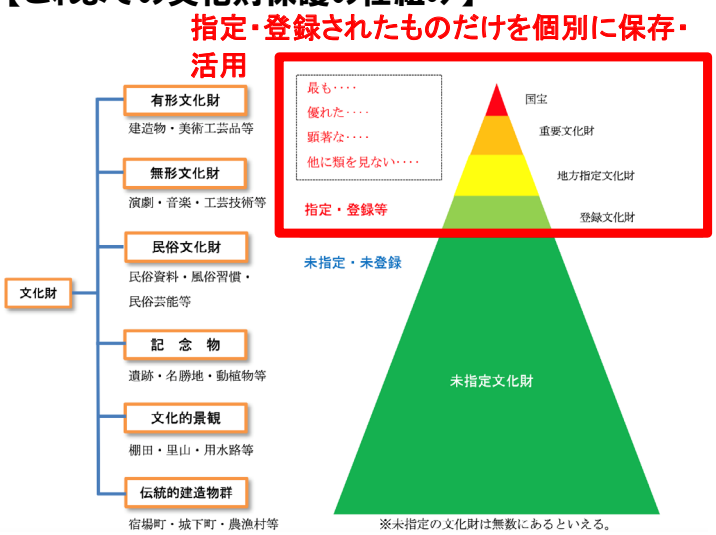
その結果がどうなったかというと、確かに指定・登録された文化財は、守られてきました。しかし、そこからもれた未指定文化財については徐々に喪失が進んでしまっています（右図下）。

未指定文化財には、歴史的・伝統的建物のほかにも、地域の伝統行事や伝統技術、郷土食、方言、さらには自然・景観といった無数のものがあります。指定・登録文化財はもちろん大切なものですが、地域にとって身近な「宝」というと、未指定文化財の中にも、というかむしろ、未指定文化財の中にこそあるといえます。そして、指定・登録文化財だけではなく、未指定文化財も守っていきたいものです。

しかし、文化財を取り巻く環境は右図下のように変化しています。現在、指定文化財は、所有者が守り、行政が支援してきましたが、それだけでは指定文化財しか守れない。それどころか、それも難しくなってきています。

そこで、これまでの指定・登録文化財を個別に保存・活用する仕組みに加え、市民や民間団体などを加えた地域社会全体、地域総がかりで文化財を継承しようという取り組みです。そのための仕組みづくりの計画が文化財保存活用地域計画になります。

【これまでの文化財保護の仕組み】



【その結果】未指定文化財の喪失

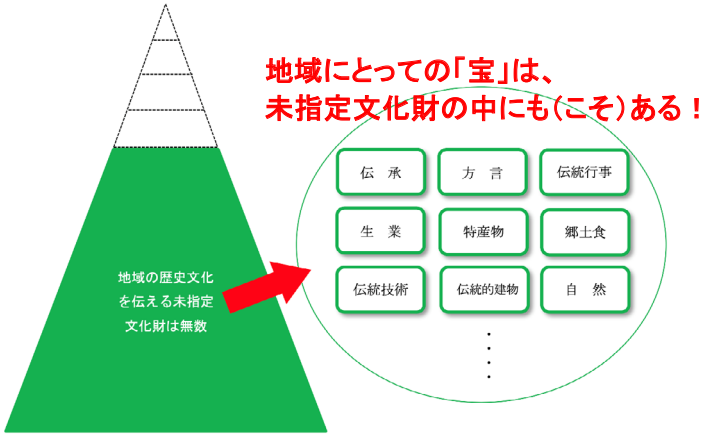
○山口県萩市の調査（1998 年～2004 年の 6 年間）
- 伝統的建造物　1,604 棟 ➔ 1,434 棟（▲10.6%）
- その他伝統要素（樹木・塀・垣等）　3,825 件 ➔ 3,460 件（▲9.5%）

○東京都台東区谷中地区（1986 年～2001 年の 15 年間）
- 住宅，店舗兼住宅等を中心とした「戦前のすまい」　537 棟 ➔ 369 棟（▲31.3%）

○石川県金沢市（1999 年～2004 年の 5 年間）
- 歴史的建築物　市全域　21,496 棟 ➔ 19,037 棟（▲11.4%）
- 〃　まちなか区域　10,877 棟 ➔ 9,506 棟（▲12.6%）

※５年間で約 10%の文化財が喪失している

【未指定文化財とは】



【文化財を取り巻く環境の変化】

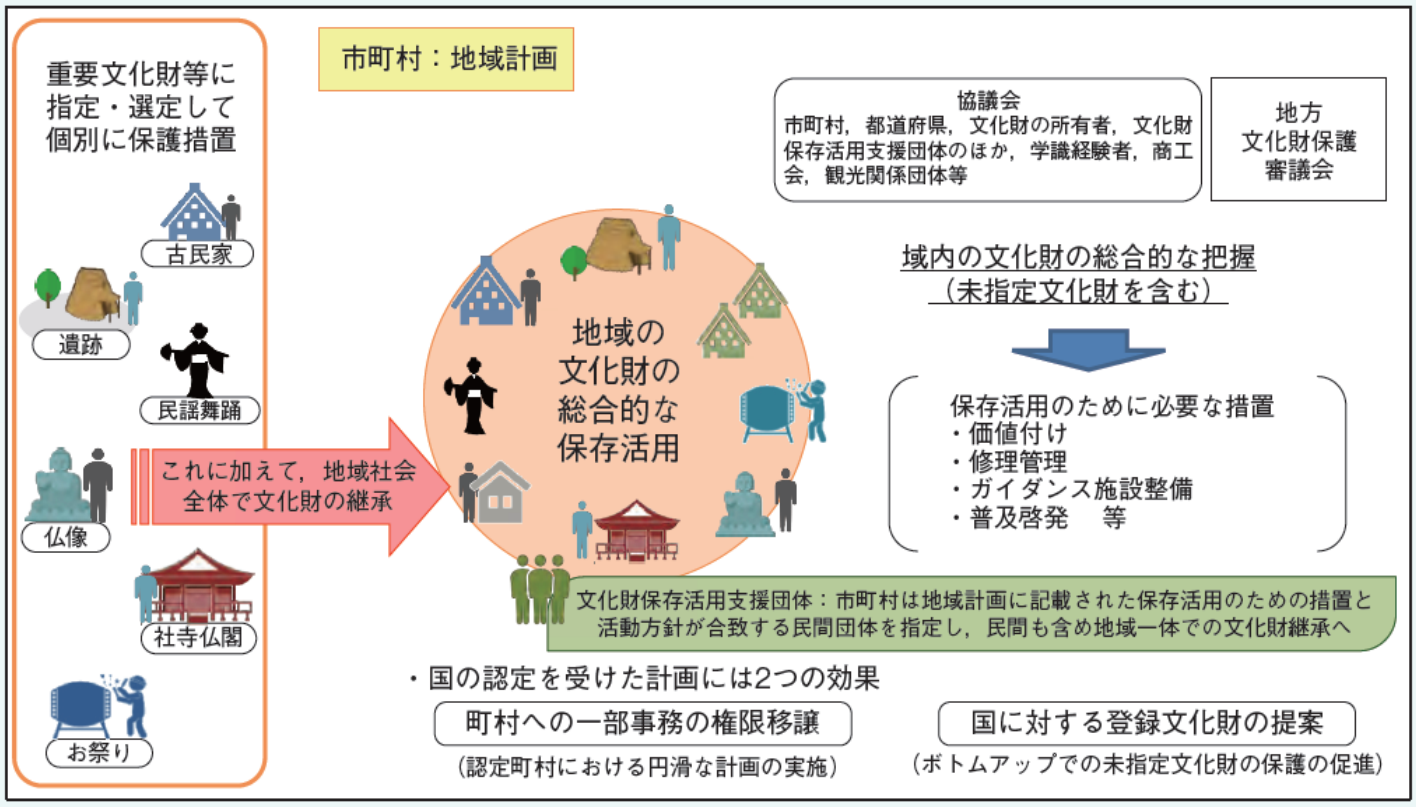
社会構造（産業・コミュニティ等）や価値観の変化
- 生活様式の変化による伝統的な生活習慣・風習の廃れ
- 日常における自然環境との関係が希薄に
- 伝統的な文化に対する理解・興味の欠如
- 開発による未指定文化財の喪失と景観の変化
- 首都圏への一局集中による地方の多様な歴史・文化の衰退

過疎化・少子高齢化による文化財保存・活用の担い手の不足
- 重文民家の個人所有者の平均年齢は７３歳前後
- 行事・祭礼・芸能など無形文化財の存続の危機
- 有形文化財においては、日常的な維持管理機能が低下
- 周辺環境の継承が困難
- 後継者の不足、産業として成立しない伝統的技術の衰退
- 原材料確保の困難

人口減少による税収の低下
- 国、地方公共団体による支援の減少

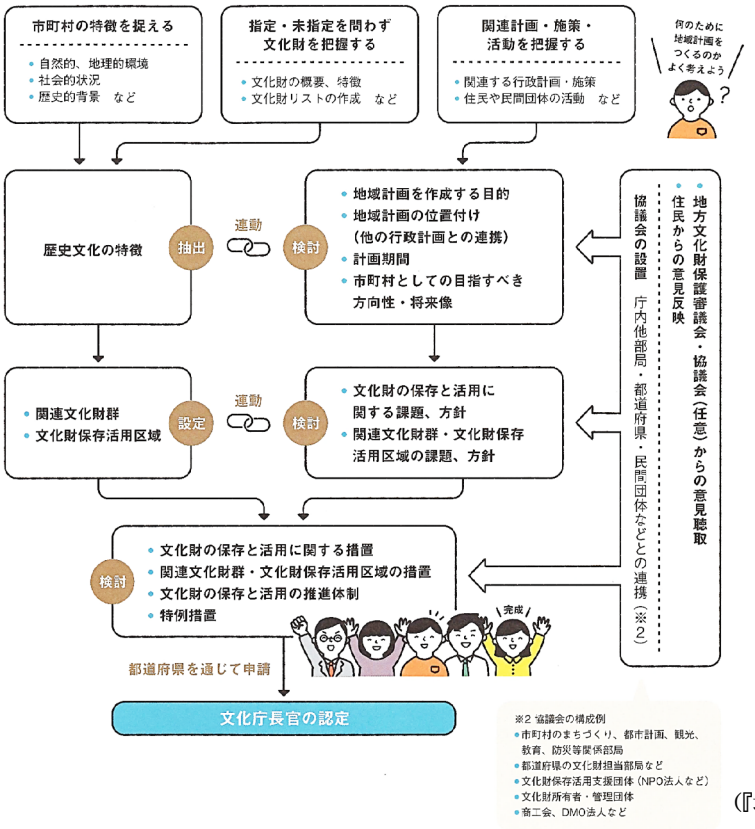
（「文化財保存活用地域計画の概要～歴史文化基本構想の事例をもとに～」2019年1月11日文化財行政担当者連絡会議資料より）

文化財保存活用地域計画の取組イメージ



（文化庁『我が国の文化政策』令和元年度版より）

文化財保存活用地域計画　作成の流れ



（『地域総がかりでつくる
文化財保存活用地域計画』文化庁パンフレットより）

作成状況

石岡市では、令和5年度に国（文化庁）の計画認定を目指し、令和3年度から作成を始めました。下記のような作業を行っています。

【アンケート調査】

令和3年5月20日～令和4年4月1日

市民の文化財への認識や意見・要望の聴取を目的に実施。

回収数　439票

【ワークショップ】

・第1回　令和4年1月29日　参加者20人

・第2回　令和4年1月30日　参加者13人

計画についての説明の後、下記項目のグループ討議・発表。

・石岡の未来に伝えたい地域の歴史、文化財、風景など（「石岡だから（宝）」）

・「石岡だから（宝）」を守っていく・伝えていく課題・方策

・「石岡だから（宝）」同士を結びづけるテーマ

・石岡未来会議　令和4年8月～10月

▲ワークショップの様子

【文化財リストの作成】

文化財を把握するため、市町史や各種の調査報告書等からリスト化。祭り・行事と諸職については、補足のアンケート調査も実施。

【文化財保存活用地域計画協議会】

文化財の所有者や学識経験者、商工関係団体、観光関係団体、教育関係団体、文化財関係団体のほか、県の文化財担当課長、市の都市計画、商工観光担当課長の計20人で構成。

・第1回協議会（令和3年11月18日）

計画の作成趣旨・方針、章立て、作成スケジュール

・第2回協議会（令和4年3月23日）

文化財調査（中間報告）、アンケート・ワークショップの報告、素案（序章～第3章）の検討

・第3回協議会（令和4年7月1日）

作成スケジュール、素案（序章～第3章）の再検討、素案（第4章～第5章）の検討

【オープンハウス】

・令和4年5月29日（いしおか商工祭）

計画作成の経緯・目的を説明するパネル展示。合わせて、「石岡だから（宝）」を募集。

▲いしおか商工祭での
オープンハウスの様子

【文化庁協議】

・令和4年4月25日

・令和4年8月26日

目次（案）

序章　石岡市文化財保存活用地域計画作成の目的と位置付け
　第1節　地域計画作成の背景と目的
　第2節　地域計画の位置付け
　第3節　計画期間
　第4節　地域計画の進捗管理と自己評価の方法
　第5節　協議会の経過
　第6節　文化財の定義

第1章　石岡市の概要
　第1節　社会的状況
　第2節　石岡市の自然的・地理的環境
　第3節　歴史的背景

第2章　石岡市の文化財の概要と特徴
　第1節　指定等文化財の概要と特徴
　第2節　埋蔵文化財の状況
　第3節　未指定文化財と独自の基準に基づいて選定された文化財の概要と特徴

第3章　石岡市の歴史文化の特徴

第4章　石岡市の文化財の保存・活用に関する将来像と基本的な方向性
　第1節　石岡市の文化財の保存・活用に向けた将来像
　第2節　石岡市の文化財の保存・活用に向けた方向性

第5章　石岡市の文化財の保存・活用に関する現状・課題と方針及び措置
　第1節　石岡市の文化財の保存・活用に関する課題
　第2節　石岡市の文化財の保存・活用に関する方針
　第3節　石岡市の文化財の保存・活用に関する措置

第6章　文化財の一体的・総合的な保存・活用
　第1節　関連文化財群の設定
　第2節　文化財保存活用区域の設定

第7章　石岡市の文化財の防災
　第1節　石岡市の文化財の防災・防犯に関する課題
　第2節　石岡市の文化財の防災・防犯に関する方針
　第3節　石岡市の文化財の防災・防犯に関する措置
　第4節　石岡市の文化財の防災・防犯の推進体制と体制整備の方針

第8章　事業計画
　第1節　石岡市の文化財の保存・活用の推進体制
　第2節　石岡市の文化財の保存・活用の体制整備の課題・方針

将来像と基本方針（案）

将来像

悠久の歴史文化を共に守り、伝え、輝くまち　いしおか

基本方針

- **基本方針１**
  石岡の歴史文化を守り、価値を高め、未来に受け継ぐ
- **基本方針２**
  石岡の歴史文化を活かし、魅力あふれた地域づくり
- **基本方針３**
  石岡の歴史文化の保存・活用を支える仕組みづくり

石岡の「歴史文化の特徴」とは

「石岡」といえば何でしょうか？おまつり？国分寺？筑波山？それとも里山の景観でしょうか。

文化財保存活用地域計画では、歴史的に培われてきた地域の個性、地域らしさを「歴史文化の特徴」と呼んでいます。その特徴こそが「石岡らしさ」であり、未来に伝えていくべきもの、磨き育てることで石岡市を輝かせることができるものになります。

計画の作成を進めるなかで、石岡市の概要（自然的・地理的環境、社会的状況、歴史的背景）や指定・未指定の文化財の概要を改めて見つめ直し、またアンケートやワークショップでの市民のみなさんの意見から、以下の4つの「歴史文化の特徴」（案）を抽出しました。

- ●常陸の中心
- ●県下有数の商都
- ●重なり広がる多様な祭り・信仰
- ●山と生きる、水と生きる

歴史文化とは

地域に固有の風土の下、先人によって生み育まれ、時には変容しながら現代まで伝えられてきた知恵・経験・活動等の成果及びそれが存在する環境を総体的に把握した概念。地域の歴史や文化にまつわるコンテクスト。歴史文化の特徴は、地域らしさ、地域の特徴をあらわす。

歴史文化の特徴の例

1. ○○国の繁栄
2. ●●信仰により特徴付けられる信仰の固有性
3. ●●藩により形成された地域の骨格と文化
4. 近代化の波ー鉱山・鉄道・養蚕ー
5. 「ものづくり」の多様性と技術の錬磨
6. ●●街道を行き交う人々の交流
7. 風土に育まれた多様な生活と文化

（『地域総がかりでつくる文化財保存活用地域計画』文化庁パンフレットより）

常陸の中心

古代から中世にかけて常陸国の中心であった地域で、その成立から繁栄、没落までが凝縮された地域

市内には401か所もの埋蔵文化財包蔵地が存在し、有史以前からの人々の営みが見られます。特に古墳時代には、柿岡地区に丸山古墳や佐自塚古墳等の前方後方墳・前方後円墳が、城南地区に東日本第2位の規模を誇る舟塚山古墳や府中愛宕山古墳等の大型の前方後円墳が築造されます。古代になると常陸国の国府が置かれ、国分寺、国分尼寺が建立されます。また、茨城郡の役所も置かれ、その寺院である茨城廃寺跡も存在しています。それに加え、国府や国分寺に供給する瓦を生産した瓦塚窯跡や、鉄製品を生産した鹿の子遺跡といった国府に関連する遺跡も存在しています。

中世になると国府の地は「府中」と呼ばれました。源頼朝に常陸平氏惣領の地位を認められ、常陸大掾職に任じられた馬場資幹及びその子孫が大掾氏を称し、在庁官人と結びついて府中を治めることとなります。本市内には居城である府中城跡や墓所、ゆかりの寺院等が存在しています。しかし、大掾氏は戦国末期に佐竹氏により滅ぼされてしまいます。

▲丸山古墳出土遺物（鏡）

▲舟塚山古墳

▲茨城廃寺跡

▲常陸国府跡

▲常陸国分尼寺跡

▲瓦塚窯跡

▲府中城の土塁

▲常陸大掾氏墓所

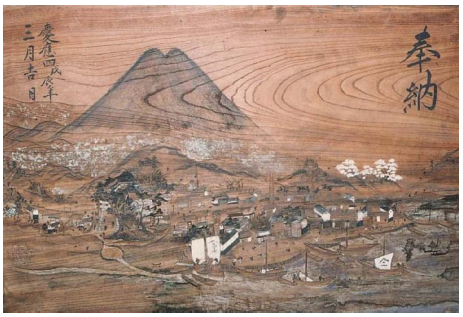
このように本市は、古代から中世にかけて常陸国の中心であった地域であり、その成立から繁栄、没落までが凝縮された地域となっています。

県下有数の商都

水陸の道が交わり、県下有数の商都として繁栄し、現在でもその町並みが残る地域

戦国時代の動乱で焼かれた府中は、新たに支配者となった佐竹氏によって近世の「府中宿」へと姿を変えました。現在の中心市街地の区画は佐竹氏の町立てを受け継いだものです

▲石岡の一里塚



▲高浜神社絵馬

府中宿の性格を決定づける要因には、江戸と水戸を結ぶ「水戸街道」と恋瀬川・霞ケ浦水運のターミナルである「高浜河岸」の存在があげられます。水陸の道が交わることで物と人が集まり、それによって醸造業や穀物商を中心とした商業活動が活発に行われ、府中宿は商人の町として発展しました。かつての水戸街道を伝えるものとして石岡の一里塚が残り、また、高浜河岸の繁栄の様子は市内各地に残る古文書や高浜神社の絵馬に見ることができます。

▲府中誉

▲廣瀬商店

▲冷水酒造

▲青柳新兵衛商店

近代になると、成長し力をつけた商人たちは公共インフラや鉄道事業、農地拡大等多様な分野でまちづくりをけん引し、その痕跡は八木の干拓等本市内の各地に現在も残ります。また、旧水戸街道を中心に看板建築等の商家建築が多く残る町並みは商業都市としての歴史文化を伝える特徴的な景観であり、近世から近代にかけての本市の特徴の一端を顕著に表しています。

▲十七屋履物店・久松商店・福島屋砂糖店

▲土屋左官

重なり広がる多様な祭り・信仰

古代から現代までの多様な祭り･信仰が積み重なり、各地で受け継がれている地域

▲木造立木観音菩薩像（西光院）

本市には多くの寺社や石造物、まつりや行事が今も各地に残っていて、それらは当時の文化や信仰を背景としています。こうした文化や信仰は政治や支配体制により変化しながら、地域に広まり根付いていきました。

古代には、仏教政策により国分寺･尼寺等の建立が促進されます。本市においても国分寺跡や国分尼寺跡、茨城廃寺跡にそれを見ることができ、仏教が広まるきっかけとなりました。また、徳一ゆかりの西光院をはじめとした山岳寺院等も存在し、古くからの筑波山･加波山への信仰を物語っています。南都六宗や天台･真言宗についても、三村山に極楽寺を建てたといわれる律宗の忍性の活動が確認でき、筑波山系と密接に結びつく本市に影響を与えました。中世になると鎌倉仏教が伝来し、親鸞ゆかりの地をはじめとして、新仏教の広がりを見ることができます。

▲高浜神社

▲常陸国総社宮

▲青屋神社

一方で、古代の神祇信仰の一端も見ることができます。国府着任した国司の職務として、国内の大社を順次参拝する習わしがあり、本市内にはこれを起源とするといわれる高浜神社や常陸国総社宮、青屋神社が残っています。

▲常陸国総社宮祭礼の獅子・山車・ささら行事

近世には、府中の町の商人たちの経済的発展を背景として、祭礼が華やかなものになっていきました。「石岡のおまつり」として親しまれている常陸国総社宮例大祭は、山車や獅子等の祭礼行事の規模も大きく本市を代表する祭りとなっていますが、そのルーツは近世府中の祇園祭に遡るものです。

▲真家みたま踊

▲代田の大人形

時には支配層による権威の誇示や政治支配のためだった信仰は、力をつけた町人によるものになる等、担い手によって様々な様子を見せます。こうした主体の違いによる信仰が建造物やまつり、年中行事という形で現れ、それらが文化として積み重なり、今もなお各地で受け継がれています。

山と生きる、水と生きる

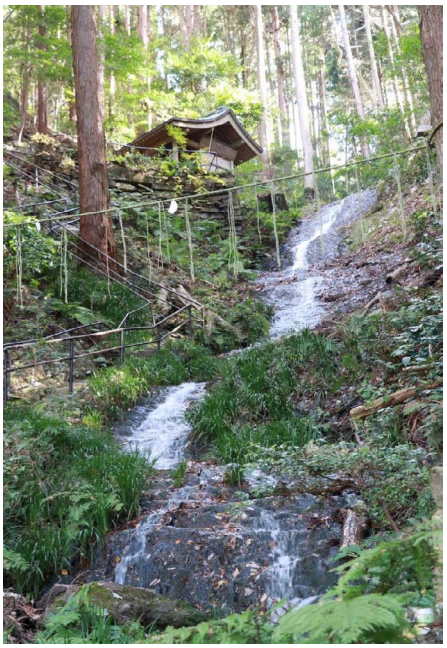
山と水、多様な地理環境に支えられた地域であり、その環境と共生してきた様々な文化が凝縮された地域

本市は、北部から西部にかけての筑波山地、市街地中心の石岡台地、南東部の霞ケ浦とそこに注ぎ込む恋瀬川・園部川と多様な景観を呈しています。こうした環境は、原始から人々の暮らしに大きな影響をもたらしました。

北部から西部にかけての筑波山地では、球状花崗岩に代表される石資源が人々に恵みをもたらしている他、ヒメハルゼミの生息地等豊かな自然が現在まで受け継がれています。また、棚田や茅葺き民家等日本の原風景を残しているのも特徴の一つです。

南部では、地蔵窪貝塚等の貝塚群が水と共生してきた人々の姿を現在に伝えている一方で、近代には八木干拓事業等、時として苦難の歴史をもたらす要因にもなりました。

このように本市は、多様な地理環境に支えられた地域であり、その環境と共生してきた様々な文化が凝縮された地域となっています。



▲鳴滝

▲杉線香の水車

▲大場家住宅

▲筑波大学八郷茅葺き研究拠点

▲坂入家住宅

▲東田中貝塚

▲八木の干拓

どんなものが「石岡だから（宝）」なの？

文化財として指定・登録されている、いないを問わず、みなさんが大切にしている、未来に伝えたい、好き！といった「地域の宝」を仮に「石岡だから（宝）」と呼びたいと思います。
次のようなものも「石岡だから」。ぜひみなさんおすすめの「石岡だから」を教えてください！

○石岡ならではの「食・食文化」も「石岡だから」！

お蕎麦ですか？柿やぶどうの果樹ですか？それとも、我が家自慢の味ですか？関連して、そば畑、麦畑、お米など村々と農地が作り出す景観も素敵ではないですか？

○あなたが好きな石岡の場所やモノだって「石岡だから」！

高浜の「爪書き阿弥陀堂」から階段を登って見晴かす「霞ヶ浦」が絶景！
恋瀬川の堤防や橋の上から望む「筑波連山」、気持ちよくないですか？
「家の近くにお地蔵さんを祀った祠があるの」とか「うちの前を○○街道が通っていて、すぐ近くに道しるべと一里塚の松があるよ」。よくないですか？

○看板建築や茅葺でないわたしのうちだって「石岡だから」！

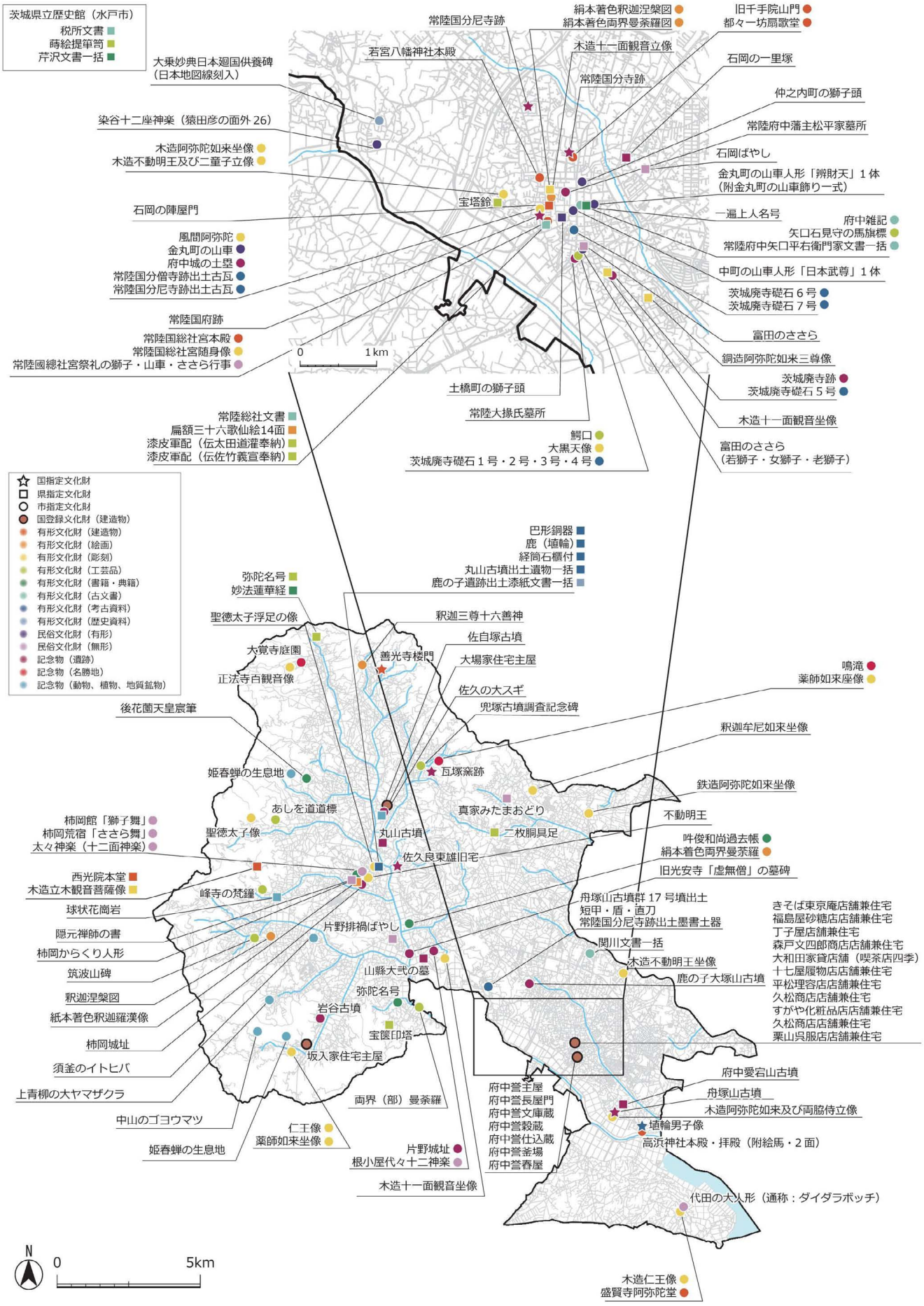
築50年以上の建造物（建物）は「登録有形文化財」の候補になるかも！
石岡近辺ではよく見かけるので何とも思っていなかったけれど･･･の「石蔵」や古い「煉瓦塀」。実は「石岡だから」なんです！ご近所にありませんか？

○昔から我が家に伝わる年中行事だって「石岡だから」！

「お祖父さんの代までは毎年きちんとしていたけれど･･･」「子供が減って○年前に途絶えてしまった地区の行事があるんだが･･･」あ！それ官民みんなで知恵を絞って復活させませんか。せめて記録画像だけでも。それ「石岡だから」！

○昔話や伝説だって「石岡だから」！

「祖母が寝しなに話してくれた昔話が懐かしくって今でも覚えています！」
石岡ならではの昔話や伝説の数々、ありますよね。それも大切な「石岡だから」。ぜひ、伝えていきましょう！


茨城県立歴史館（水戸市）
税所文書
蒔絵提箪笥
芹沢文書一括
大乗妙典日本廻国供養碑（日本地図線刻入）
染谷十二座神楽（猿田彦の面外26）
木造阿弥陀如来坐像
木造不動明王及び二童子立像
石岡の陣屋門
風間阿弥陀
金丸町の山車
府中城の土塁
常陸国分僧寺跡出土古瓦
常陸国分尼寺跡出土古瓦
常陸国府跡
常陸国総社宮本殿
常陸国総社宮随身像
常陸國總社宮祭礼の獅子・山車・ささら行事
常陸総社文書
扁額三十六歌仙絵14面
漆皮軍配（伝太田道灌奉納）
漆皮軍配（伝佐竹義宣奉納）
常陸国分尼寺跡
若宮八幡神社本殿
絹本著色釈迦涅槃図
絹本著色両界曼荼羅図
木造十一面観音立像
常陸国分寺跡
宝塔鈴
土橋町の獅子頭
常陸大掾氏墓所
鰐口
大黒天像
茨城廃寺礎石１号・２号・３号・４号
旧千手院山門
都々一坊扇歌堂
石岡の一里塚
仲之内町の獅子頭
常陸府中藩主松平家墓所
石岡ばやし
金丸町の山車人形「辨財天」１体（附金丸町の山車飾り一式）
一遍上人名号
府中雑記
矢口石見守の馬旗標
常陸府中矢口平右衛門家文書一括
中町の山車人形「日本武尊」１体
茨城廃寺礎石６号
茨城廃寺礎石７号
富田のささら
銅造阿弥陀如来三尊像
茨城廃寺跡
茨城廃寺礎石５号
木造十一面観音坐像
富田のささら（若獅子・女獅子・老獅子）
0
1km
国指定文化財
県指定文化財
市指定文化財
国登録文化財（建造物）
有形文化財（建造物）
有形文化財（絵画）
有形文化財（彫刻）
有形文化財（工芸品）
有形文化財（書籍・典籍）
有形文化財（古文書）
有形文化財（考古資料）
有形文化財（歴史資料）
民俗文化財（有形）
民俗文化財（無形）
記念物（遺跡）
記念物（名勝地）
記念物（動物、植物、地質鉱物）
巴形銅器
鹿（埴輪）
経筒石櫃付
丸山古墳出土遺物一括
鹿の子遺跡出土漆紙文書一括
弥陀名号
妙法蓮華経
聖徳太子浮足の像
釈迦三尊十六善神
佐白塚古墳
大覚寺庭園
善光寺楼門
大場家住宅主屋
正法寺白観音像
佐久の大スギ
兜塚古墳調査記念碑
後花薗天皇宸筆
姫春蝉の生息地
瓦塚窯跡
あしを道道標
真家みたまおどり
聖徳太子像
丸山古墳
二枚胴具足
佐久良東雄旧宅
柿岡館「獅子舞」
柿岡荒宿「ささら舞」
太々神楽（十二面神楽）
西光院本堂
木造立木観音菩薩像
峰寺の梵鐘
球状花崗岩
隠元禅師の書
柿岡からくり人形
筑波山碑
釈迦涅槃図
紙本著色釈迦羅漢像
柿岡城址
須釜のイトヒバ
上青柳の大ヤマザクラ
中山のゴヨウマツ
姫春蝉の生息地
片野排禍ばやし
山縣大弐の墓
弥陀名号
岩谷古塔
宝篋印塔
坂入家住宅主屋
両界（部）曼荼羅
仁王像
薬師如来坐像
片野城址
根小屋代々十二神楽
木造十一面観音坐像
鳴滝
薬師如来座像
釈迦牟尼如来坐像
鉄造阿弥陀如来坐像
不動明王
吽俊和尚過去帳
絹本着色両界曼荼羅
旧光安寺「虚無僧」の墓碑
舟塚山古墳群 17 号墳出土短甲・盾・直刀
常陸国分尼寺跡出土墨書土器
関川文書一括
木造不動明王坐像
鹿の子大塚山古墳
きそば東京庵店舗兼住宅
福島屋砂糖店店舗兼住宅
丁子屋店舗兼住宅
森戸文四郎商店店舗兼住宅
大和田家貸店舗（喫茶店四季）
十七屋履物店店舗兼住宅
平松理容店店舗兼住宅
久松商店店舗兼住宅
すがや化粧品店店舗兼住宅
久松商店店舗兼住宅
栗山呉服店店舗兼住宅
府中誉主屋
府中誉長屋門
府中誉文庫蔵
府中誉穀蔵
府中誉仕込蔵
府中誉釜場
府中誉春屋
府中愛宕山古墳
舟塚山古墳
木造阿弥陀如来及び両脇侍立像
埴輪男子像
高浜神社本殿・拝殿（附絵馬・２面）
代田の大人形（通称：ダイダラボッチ）
木造仁王像
盛賢寺阿弥陀堂
N
0
5km

▲　指定・登録文化財位置図

石岡市立ふるさと歴史館第30回企画展

石岡の歴史文化を考える

令和４年10月５日発行

編集・発行
石岡市教育委員会 文化振興課
〒315-0195 石岡市柿岡5680-1
TEL 0299-43-1111
石岡市立ふるさと歴史館
〒315-0016 石岡市総社1-2-10
TEL 0299-23-2398